インドネシアを体験
（海外インターンシップの場合）

NIFRELで「感性にふれる」伝達方を学ぶ

今回私は、株式会社 海遊館の運営する NIFREL でインターンシップを行った。NIFRELでは、万種類ものEXP に付随するムービーである。「感性にふれる」というコンセプトを持つ当施設にて、私は自身の研究分野である“魚の模様がする仕組み”についてのアプローチを行い、科学の内容を広く伝える方法を学んだ。

◆ 生体展示施設におけるサイエンスコミュニケーションを学ぶ

私は、大学の研究内容を広く一般の人々に伝えていく活動に興味があり、そのためには、実際に一般の人々に対してアプローチを行う場が必要である。今回インターンシップでは、NIFRELの中で行われるコミュニケーションの方法を学び、自身のアプローチの力を知ることを目的とした。

◆ “色と模様”の専門家として働く [自己の位置づけ]

今回のインドネシアでのインターンシップでは、色と模様を専門として業務を行うのでなく、生きもの展示や企画内容を考え、職員に対して専門的な知識を提供したりする、アドバイザーやような立ち位置で業務を行った。

◆ インターンシップの生活 [インターンシップの生活]

インターンシップの様子としては、先輩の方々が加わられ、その課題に対する計画や制作を自宅もしくは研究室で行い、二週間に一度ほど、課題の進め方や計画の内容を共有するために開催する、という形で行われた。NIFRELは大阪大学の近隣にあるため、勤務地まで自転車で通った。このため、日々の研究と両立することが可能であるが、それと同時に、自分の適切な時間が確保される様式であった。どちらにどれだけ時間を割くかなどといった、計画的に2つ以上のプロジェクトを進めつついくための挑戦を学ぶことができた。

◆ 実験の活動 [切ったこと]

インターンシップの中で、主に6つ以上の活動を行った。

(1) 展示企画ミーティングに参加

NIFREL内で行われた“色と模様”に関する展示企画ミーティングに参加し、模様の研究者として視点からアドバイザーや提案された。

(2) 館内リーフレットのコラム執筆

春夏秋冬に合わせて期間限定で配布されるNIFREL館内リーフレットの“魚にふれる”に“生きもののもよう”において、魚の色や模様がするメカニズムの紹介を執筆した。このコラムは、NIFREL対面担当の方と内容に関する打ち合わせを行い、複数回の修正のもと作成された。

インパクトおとしされて学べない多くのこと [学んだこと]

企画会議に参加することで、生きものの魅力を伝えるために工夫された展示が成される過程を学ぶことができた。キャリア・体験ギャラリー、サイエンスカフェの実施を通じて、一般的な人がどのような視点で科学に興味を持つか、また、どのような会話を行えば、その人の興味や好奇心を引き出すことができるかを学んだ。Webコンテンツ作成では、イラストを用いて研究内容を説明するという、自身の世界に気づくことができた。インターンシップを通じて、NIFRELが行うサイエンスコミュニケーションの方策を学び、自分のアプローチの力を経験できたことのその成果が得られ、学ぶことが多かった。

インターンシップ体験記 (続き)

(3) NIFREL キャリア体験

NIFRELは、100種類の書籍や展示、研究に携わるキュレーターの業務を体験した。館内は水槽館から始まり、生きもののも状態観察やスケジュールのチェック、館内外の見学には、新しい展示される予定の生きものや展示条件の検討や生体観察、発表では、生きものやスペシャリストとして生体を紹介することで、生きものとお客様をつなぎ、裏では、スペシャリストとして続けるために、生きを育て、観察し、生きものとの関係をつくる、という印象深い体験ができた。

(4) 社内向けの「色と模様」に関するレクチャー

NIFRELの職員向けに「色と模様」に関する時短版レクチャーを行った。その事前準備として、色と模様に関して、お客様からよく聞かれる質問などはどれかと予想に留めつつ復習を行った。その結果、質問に答える中で、自らの内に見えないように、自身で全てのものを構造し、興味をもつように工夫を行った（右図）。

(5) サイエンスカフェの企画と実施

「模様のできる仕組み」について、近藤達研究者と共に働こうとしたサイエンスカフェを実施した。サイエンスカフェは、NIFREL内で初めての取り組みであり、私は自ら進んで企画をしたと提案、実演させて頂いた。当日は、生きものや顕微鏡を用いたワークショップを行い、直感的に模様ができる仕組みを理解してもらえたような工夫をしました。参加者の反応は好評であり、今後もこのような取り組みを続けてほしいという声が寄せられた。

◆ 実験を通じて学べしなかったこと [学んだこと]

企画会議に参加することで、生きものの魅力を伝えするために工夫された展示が成される過程を学ぶことができた。キャリア・体験ギャラリー、サイエンスカフェの実施を通じて、一般的な人がどのような視点で科学に興味を持つか、また、どのような会話を行えば、その人の興味や好奇心を引き出すことができるかを学んだ。Webコンテンツ作成では、イラストを用いて研究内容を説明するという、自身の世界に気づくことができた。インターンシップを通じて、NIFRELが行うサイエンスコミュニケーションの方策を学び、自分のアプローチの力を訓練できたことのその成果が得られ、学ぶことが多かった。